

薬史学会通信

No.31 2001年2月

〒113-0032

東京都文京区弥生2-4-16

(財)学会誌刊行センター内

日本薬史学会事務局

Phone (03) 3817-5821

FAX (03) 3817-5830

日本薬史学会'01(平成13)年度総会 講演会のお知らせ

と き 2001年(平成13)年4月14日(土)午後

ところ 東京大学薬学部記念講堂(文京区本郷)

11:30～ 評議員会(別途御案内)

13:30～ 総 会

14:00～ 総会講演(入場無料・来聴歓迎・薬剤師集合研修認定制度対象)

テーマ「医療薬学・薬学教育」

北里大学薬学部教授 小宮山 貴子 氏

「薬学教育のアイデンティティ」

九州大学大学院薬学研究科教授 澤田 康文 氏

「薬学教育と社会」

17:00～ 懇 親 会 於 学士会館分館(会費:4,000円)

主 催 〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16
(財)学会誌刊行センター内、日本薬史学会事務局
TEL. 03-3817-5821 FAX. 03-3817-5830

共 催 (財)日本薬剤師研修センター

総会講演会について

最近「医学コアカリキュラム」の検討はかなり進められておりますが、遅れていた「薬学コアカリキュラム」が現在、国公私立薬系大学で医療薬学を重点に精力的に検討されています。本会は東西を代表する講者により講演会を行います。多数の方々の参加を期待しています。

日本薬史学会秋季年会・演題募集

日 時：平成13年11月10日(土) 13時～17時

会 場：東京理科大学薬学部(10号館・予定)
東京都新宿区市ヶ谷船河原町12

日本薬史学会では2001年度から、秋季年会として口頭発表形式の研究発表会(一人20分)を開催します。研究発表論文は公募として演題を募集します。奮って応募して下さい。

申し込み締切り：平成13年7月25日(水)

申 込 先：〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16

(財)学会誌刊行センター内、日本薬史学会事務局

演題申込者に研究発表要旨の国会指定用紙を送ります。

講演要旨の締切：平成13年10月15日(月)

発表は原則としてOHPを使用(20分)

研究論文要旨は本会の薬史学雑誌、第36巻、第2号にB5版に縮尺して掲載します。

日本薬学会史年表の編集について

日本薬学会は1980(昭和55)年、日本薬学会100周年記念事業の一つとして「日本薬学会百年史年表」を刊行しましたが、故宗田一氏など、日本薬史学会会員が編集委員として参加し完成させました。

その後は「日本薬学会史年表(続)」として5年毎にまとめて編集し、次のようにファルマシア誌上に発表して参りました。

1980～1985:ファルマシアVol. 29, No. 1(1993)

1986～1990: 同上 Vol. 30, No. 1(1994)

1991～1995については、日本薬学会が日本薬史学会に年表の編纂を委託し、薬史学会はこれを受託する旨の「覚書」を交換することとし、両会の会頭(長)が署名捺印し、ファルマシアVol. 33, No1(1997)に掲載しました。

それから5年を経過し、1996～2000までについて、本'01(平成13)年1月に同様の覚書を交わし、現在、実作業に入っていることを報告いたします。

薬史学会会費

前納お願い

一 般：(年) 5,000円

学 生：(年) 2,000円

振替口座

00120-3-67473

日本薬史学会

日本薬学会第121年会 (札幌)

本会は先の平成8年(1996年)の日本薬学会第116年会(金沢)で、「北陸の薬史」のテーマでシンポジウム講演を行いました。本年の日本薬学会第121年会(札幌)では、「北海道薬史学を学ぶ会」の方々に、「北海道の薬史」のワークショップ講演会を行います。多数の方々の参加を望みます。

日 時：3月28日(水) 13:30～16:30

会 場：北海道厚生年金会館 3F | 会場 玉葉の間

テーマ：ワークショップ3

「北海道の薬史」

オーガナイザー：三沢 美和(星薬科大学)、山岸 喬(北見工業大学)

13:30～13:35 座長 三沢 美和、山岸 喬

はじめに (星薬科大学) 三沢 美和

13:35～14:05

1. 蝦夷地の薬物—アイヌの薬物からオランダ医学の薬物まで—
(北見工業大学) 山岸 喬

14:05～14:35

2. 蝦夷地採薬使の資料—道内に残る渋江長泊から採取品や日記、当時の旅行など—
(元北海道大学付属図書館) 秋月 俊幸

14:35～15:05

3. 北海道における薬学教育の歴史—明治期から平成まで—
(北海道薬科大学) 吉沢 逸雄

15:05～15:35

4. 北海道の薬用資源開発と企業化の歴史—北海道の各種薬用資源開発と企業化の経緯—
(共成製薬 恵庭研究室) 西沢 信

15:35～16:05

5. 北海道における明治以降の薬業
(まるいち) 斉藤 元護

16:05～16:30

「まとめ・討論」

北見工業大学 山岸 喬、星薬科大学 三沢 美和

日本薬学会第121年会(札幌)薬史学関係 ポスター発表

3月30日(金)(9:00~11:30) ロイトン札幌 3F PF会場

- 30 [PF] I-001 戦後、医薬品生産の推移
(北海道薬史を学ぶ会)○斉藤 元護、向山 侑、松本 仁人
- 30 [PF] I-002 明治32年弘前市に開設された医学薬学講習所に関する歴史的考察
(弘前大病院薬)○大久保 正、菅原 和信
- 30 [PF] I-003 星一の理念に満ちあふれていた星製薬商業学校(1922~1945)
(星薬大)三沢 美和
- 30 [PF] I-004 近代日本医薬品産業の発展、その16. 日本における製薬企業の本拠地を中心とした麻薬製剤の変遷
(大日本製薬、日本薬史学会)○竹原 潤、山田 光男
- 30 [PF] I-005 薬壺をもつ薬師如来(図)像と薬剤師としてのキリスト図像の類似性
(名城大薬)奥田 潤

第35回国際薬史会議

2001年9月19~22日
於 スイス・ルツェルン

国際薬史会議(International Society for the History of Pharmacy)のニュースレター2000-1号に、上記国際会議が広告されました。

本年9月19日(水)夕刻より開会式と講演、翌20日(木)と21日(金)に主テーマとして「薬局(薬学)と国家」および「芸術の中での薬局(薬学)」、22日(土)には国際薬史学会創立75周年記念式とシンポジウムが催されます。

ルツェルンはスイス中部の観光地であり、有名な医学史博物館のあるチューリッヒ、薬学史博物館のあるバーゼル、首都ベルンなどへは車で1時間で、参加者の収穫は大きいだろう、と呼びかけております。

会議案内第2報を希望される方は次の書式で現地へ連絡して下さい。

Please send 2nd announcement to

Name First name

Address

Postal code Country

Phone, Fax, E-mail

宛先: SGGP c/o Schweizerischer
Apothekerverein Stationsstrasse 12,
CH-3097 Bern-Liebefeld
Phone 0041 31/9785858
Fax 0041 31/9785859

改正された
国際薬史学会の
ロゴマーク



現在、14の国が
参加されています。